

伊豆大島ジオパークをもっと楽しむ！ ガイドツアーのススメ



どうして牛乳煎餅？

あんこさんって何？

なぜここに
神社があるの？



なぜ山の上に
黒い砂漠地帯が
できたの？

なぜゴツゴツした
溶岩の上に
植物が生えているの？



ジオガイドは、伊豆大島ジオパークで
出会える景色や体験の奥にある
「ふしぎ」を楽しく読み解くお手伝いをしています！

伊豆大島ジオパーク認定ジオガイドが行うジオツアー 常時受付中！
半日1名 ¥5,000(税別) から／2名様より催行(※2022年8月現在)
詳しくは伊豆大島ジオパーク公式ホームページをご覧ください
<https://izuoshima-geo.org/enjoy/guidetour.html>



なるほど
ナットク！

岡田港に着いたらまず寄ろう！



ジオステーションおかた港

船客待合所2階で伊豆大島ジオパークの基本情報+最新
情報が入手できます。到着の際はこれから巡る場所の確認
に、お帰りの際は次回来島の計画づくりにご活用ください！
開館／当日の出帆港が岡田港の日の9:00頃から16:00頃まで
(船の運航時刻により変動あり)

伊豆大島火山博物館

火山あつめました！

伊豆大島火山はもちろん、日本や
世界の火山を紹介しています。伊豆
大島ジオパークのヒミツと魅力が楽
しめる大迫力の映像も上映中です。

開館／9:00～17:00、年中無休
(年11日間の臨時休館日あり)
料金／一般 500円、小中学生 250円



登る前に行ってみよう！



三原山山頂ジオパーク展

開館／土・日・祝 9:30～15:00
外輪山展望台すぐそば
「展望避難休憩所」1階・ガイドさん常駐！

ジオフード

GEO FOOD

くさや

クセになる旨みをもつ「くさや」は、極めて
貴重であった塩と水を繰り返し使用す
るうちに生まれた発酵食品。離
島の厳しい暮らしに根付く、
まさにジオフードです。



アシタバ

セリ科の植物。「摘んでも明
日には新しい芽が出る」と言
われるくらい強い生命力が特
徴。野菜の栽培が難し
かったこの島の風
土に適合して古く
から自生し、島
民にとって貴重
な野菜でした。



牛乳

かつて大島は「ホルス
タイン島」と呼ばれる
くらい酪農が盛んな島
でした。温暖な気候を
好むホルスタイン種
は、潮風を受けミネラ
ル豊富な青草を食み、
元気に育ちました。



伊豆大島ジオパークへのアクセス

ACCESS

船の旅を楽しむなら

東京・竹芝	最短1時間45分(高速ジェット船)	大島 元町港 or 岡田港
熱海港	最短6時間(大型客船・夜行の場合)	
熱海港	最短45分	

伊豆大島には元町港と岡田港の二つの出帆港があります。船がどちらに着くかは、天候・海況によって当日の朝に決まります。
季節により【久里浜】[館山]【伊東】[稲取]【横浜大さん橋】経由航路も運航しています。

飛行機の旅を楽しむなら

調布飛行場	25分	東京大島 かめりあ空港
-------	-----	----------------

お問い合わせ・予約 新中央航空
0422-31-4191

島内の交通手段・宿泊について

お問い合わせ／大島観光協会(8:30～17:00)
TEL:04992-2-2177



伊豆大島ナビ
島内交通

発行

伊豆大島ジオパーク推進委員会
事務局／〒100-0101 東京都大島町元町1丁目1-14 大島町観光課ジオパーク推進係
TEL:04992-2-1446 E-Mail:c010601@town.tokyo-oshima.lg.jp (2022年8月版)



目からウロコの火山島！



伊豆大島 ジオパーク

IZUOSHIMA GEOPARK



純密の人口みつけた！

海中溶岩、お魚団地！



春夏秋冬、花のリレーも楽しんで♡



火山の島にはハートがいっぱい！

山頂エリア

真っ赤な溪谷

11 赤ダレ

近くの火口から溶岩が降り積もった後、侵食されて赤い崖が現れました。谷の先に広がる海には伊豆諸島も望めます。

溶岩の粒や火山灰の黒い砂漠

8 裏砂漠

強い風が植物の種や芽生えを吹き飛ばし、この景色が保たれています。

9 ジオ・ロックガーデン

ふしぎな形の黒い岩がニョキニョキと並んでいます。

何に見えるかあなた次第♪

7 割れ目噴火口

マグマが大地を割って、赤いしぶきを噴き上げました。

炎のカーテン!

現在

10 再生の一本道

厳しい環境に適応したパイオニア植物から命の再生が始まります。次第に草原となり、木が生え、森となる数百年間の物語をこの一本道でたどることができます。

いつか森になる道♪

こもれびトンネル♪

2 江戸時代のパホイホイ溶岩

粘り気の少ない溶岩が流れ出て、このようなシワをつくることがあります。

溶岩だってシワがよる?

5 お鉢めぐり

なんと、360度の海、富士山、伊豆半島、伊豆諸島、房総半島、三浦半島が見えるんです!

1 外輪山展望台

三原山の黒いスジは、1986年の噴火で火口からあふれ出た溶岩流の跡です。

3 1986年噴火の溶岩流先端

火口からあふれ出た溶岩は山腹を下ってここで止まってくれました。

巨大なおはき?

4 マグマのしぶきがくつした岩

川を流れるイカダのように、火口から溶岩流に乗って運ばれてきました。

地下にあるマグマで水が温められ、白い湯気が上がっています。

壮大な穴はマグマの出口!

6 三原山中央火口

1986年噴火では、マグマがこの穴を満たしてあふれ出ました。

わずか一時間のパノラマウォーク!



伊豆大島のお花 Flower

5月にはオオシマツツジ、7月にはサユリが見事な花を咲かせ、黒と緑の原野に彩りを添えます。



外周エリア

巨大バウムクーヘン

4 地層大切断面

約2万年間に起こった大噴火、約100回分の噴火の歴史です。

海に突き出た赤い丘

1 赤禿 あかつぱげ

燃えるような赤い溶岩と青い海とのコントラストが鮮やかです。

天然の栈橋?

2 長根

山腹で起きた割れ目噴火の溶岩流が沢を下って海に注ぎ、その後、硬い溶岩だけが岬として残りました。

ふかふかのブラックビーチ

5 砂の浜 さのはま

沢を流れて細くなった溶岩や火山灰が集まってできた黒い砂浜です。

火山でほっこり♪

3 元町浜の湯 ほか

1986年の噴火によって、元町地区の地下水が温泉に変わりました。

スリル満点の海食崖

6 イマサキ

波で削られた崖には、激しい噴火で飛んだ大小さまざまな石が現れています。

座布団を敷いた石

7 トウシキのボムサッグ

激しい噴火で飛んできた石が地面にめり込んで残りました。

伊豆大島をぐるっと一周!



火口が港へ大変身!

8 波浮港 はぶみなと

大津波で海とつながった火口湖を、平六さんたちが良港に整備しました。

平六さん

噴石を載せた奇妙な塔

9 カキハラ磯

周辺の地面には火山灰の丸いカタマリ(火山豆石)がたくさん見つかります!

火山は残った

10 筆島

古い火山が波に削られ、中心部にあった硬い岩が残りました。

Flower

伊豆大島のお花

温暖多雨で水はけのよい土地を好み火山ガスにも強いヤブツバキは、縄文時代から島に自生していました。さらに島の人々は、防風林、炭、油などに利用するためツバキを植え、大切に育ててきました。



ヤブツバキ

島ならではの強い潮風にも負けない植物たちが年間を通じて海岸線を彩ります。



スガシユリ



タイトゴメ

4月、火山の荒地でもたくましく生きるオオシマザクラが島の斜面を白く染め上げます。



オオシマザクラ

11 桜株 さくらっかぶ

噴火を繰り返す島で生き抜いた桜の巨木は、かつて航海の目印でした。



オオシマザクラは800歳!?

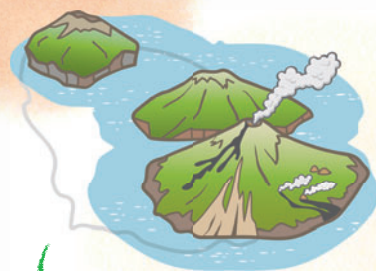
この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平29情使、第419-GISMAP39996号)



伊豆大島ジオパークで 生きている地球を体感しよう！ VOLCANO



伊豆大島 誕生物語



伊豆大島の歴史は、
海に並んだ古い火山の
物語から始まります。

今から数10万年前のこと...
このあたりには3つの火山がありました。



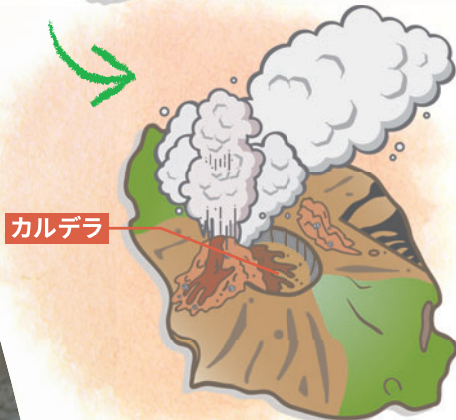
3つの火山はやがて活動を終え、
波に削られ次第に
小さくなっていきました。

そして数万年前、すぐ近くの
海底で新たな噴火が始まりました。
伊豆大島をつくった火山の誕生です。



新しい火山は何度も
噴火を繰り返し、
3つの古火山の残骸に
覆いかぶさりました。

その後も噴火を続け、
大きなひとつの火山島に
なりました。



カルデラ

およそ1700年前、
山頂で大規模な水蒸気
噴火が起こりました。

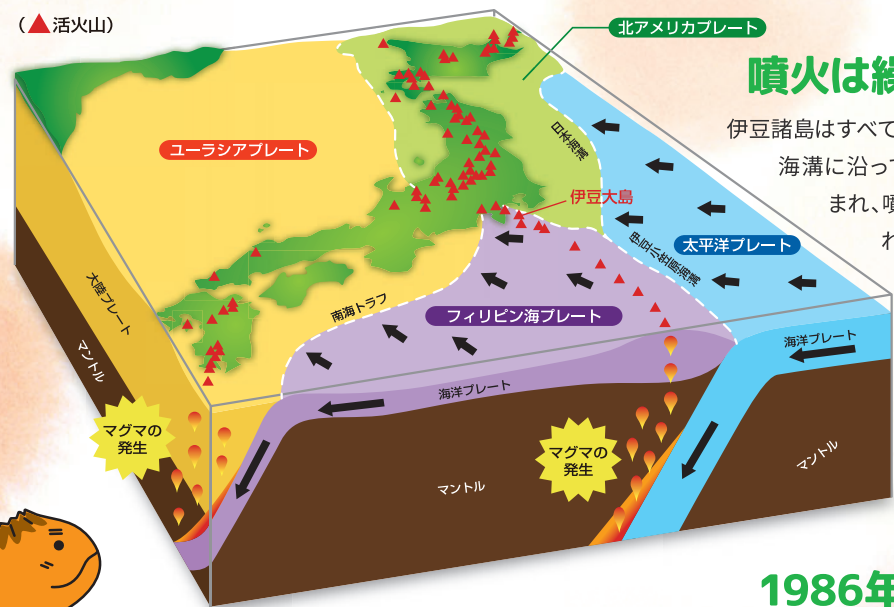
大量の岩石や土砂が島を覆うように
流れ下り、山頂部が陥没して
現在のカルデラができました。



三原山

1777年からの大噴火では、
カルデラの中に新たな山をつくりました。
それが三原山です。

その後はカルデラの中で溶岩流を流す噴火を
繰り返してきました。1986年に起こったカルデラの
外での噴火は、およそ560年ぶりの出来事でした。



噴火は繰り返す

伊豆諸島はすべて火山島です。
海溝に沿って火山列が生
まれ、噴火が繰り返さ
れています。

1986年の噴火



1986年
11月15日

山頂で噴火が
始まりました。



1986年
11月19日

溶岩がカルデラへと
あふれ出しました。



1986年
11月21日

カルデラの北部、続いて北西山腹で割れ目噴火
が起こり、溶岩が沢を流れ下って民家まで約
200mに迫りました。これがきっかけとなって、全
島民が1か月間、島外で避難生活を送りました。

ごじんか

御神火と共にある島の暮らし

火山はときに災害をもたらす、平穏な日常を脅かすものではありませんが、噴火してい
る一時的を除けば、島民の暮らしに欠くことのできない恵みを与えてくれます。伊豆大
島では古くから、噴き上がるマグマや赤く染まった空を「御神火(ごじんか)」と呼び、
敬い慕ってきました。



火山の見張り番 火山観測機器

伊豆大島では、国や大学などが、地震計、傾斜計、
監視カメラなどの火山観測機器を100基以上設置
し、気象庁が山の様子を24時間監視しています。も
し火山に異常があれば防災行政無線でお知らせし
ます。しかし、伊豆大島火山は活火山であり、突発的
な現象には注意が必要です。火山
活動の最新情報は気象庁のホーム
ページでご確認ください。

伊豆大島の火山活動状況(気象庁)



ジオパークで『地球(ジオ)と人をつながり』を楽しもう！

大地の成り立ちや特徴を知り、その地域だからこそ育まれた景色や
生き物、人々の営みの歴史を読み解き、『地球(ジオ)と人とのつな
がり』を五感で楽しめる場所、それがジオパークです。私たちはこの
島で皆さまと一緒に、目の前の風景の奥にある地球(ジオ)の物語を
味わいたいと思っています！

